

製品名: ヒスタミン H2 受容体ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12042**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	40kDa

抗原情報

遺伝子名	HRH2
別名	HRH2; Histamine H2 receptor; H2R; HH2R; Gastric receptor I
遺伝子 ID	3274.0
SwissProt ID	P25021
免疫原	抗血清はヒト HRH2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 131-180

背景

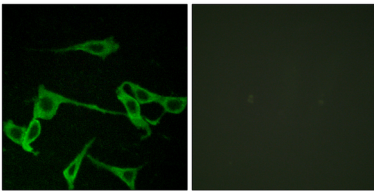
ヒスタミンは、肥満細胞、腸管クロム親和性細胞様細胞、およびニューロンから放出される普遍的なメッセンジャー分子です。その様々な作用は、ヒスタミン受容体 H1、H2、H3、および H4 によって媒介されます。ヒスタミン受容体 H2 は、G タンパク質共役受容

体ファミリー 1 に属します。これは膜貫通タンパク質であり、胃酸分泌を刺激します。また、胃腸運動および腸管分泌を調節し、細胞の増殖および分化の調節に関与していると考えられています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが見つかっています。[RefSeq 提供、2008 年 8 月]、機能: ヒスタミン受容体の H2 サブクラスは、胃酸分泌を媒介します。また、胃腸運動および腸管分泌を調節すると考えられています。細胞の増殖および分化の調節において役割を果たしている可能性があります。この受容体の活性は、アデニル酸シクラーゼを活性化する G タンパク質と、別の G タンパク質依存性メカニズムを介してホスホイノシチド/プロテインキナーゼ (PKC) シグナル伝達経路によって媒介されます。、その他: この受容体に対する拮抗薬は、消化管の酸性消化性疾患に対する有効な治療法であることが証明されています。特定の拮抗薬は、統合失調症、アルツハイマー病、パーキンソン病などの神経精神疾患および神経疾患の治療に使用されます。、オンライン情報: H2 受容体のエントリー、類似性: G タンパク質共役受容体 1 ファミリーに属します。、

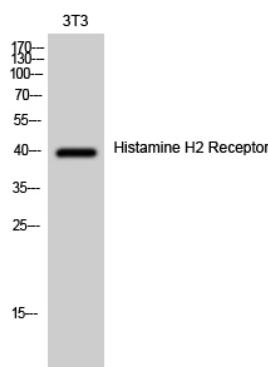
研究分野

カルシウム;神経活性リガンド-受容体相互作用;

画像データ



HRH2 抗体を用いた LOVO 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



ヒスタミン H2 受容体ポリクローナル抗体を用いた 3T3 細胞のウェスタンブロット解析